

防潮堤は何の為に、誰の為に作るのか？

現在、いつ誰が決めたのか分からないうちに次々と防潮堤の高さが発表されています。我々住民に聞くでもなく、決まった経緯も理由も知らせずに、計画だけが進んでいます。大島の西側で7m、東側で1.5mもの防潮堤を作るとのことですが、多くの人に聞いても「防潮堤なんかいらねえよ」との声しか有りません。

お役所は「生命財産を守る為」と錦の御旗を掲げますが、昨年の震災でそれに頼って亡くなった方がたくさんいます。それによって被害が拡大したところもあります。

高台に住めば、高台に逃げれば命は守れます。財産と云いますが、自然と云うかけがえのない環境は財産ではないのでしょうか。

昨年の震災時に一番安全で安心に暮らしたのは宮城刑務所の人達だったそうです。大島を防潮堤という名の堀で取り囲むことは、大島を刑務所にするこ

とす。お役所の言っていることは「あなた達の生命財産を守ってあげるから監獄の中で暮らさない」と同義であつて、自然の中で自由に暮らす権利を奪うものです。いくら安全安心でも刑務所で暮らそうとは思いません。

五十年前の大島には六千人弱の人口がありました。今は半分の三千人です。このまま推移すると五十年後には人が居なくなりません。五十年後百年後の津波に備えた防潮堤は、いったいなんの役に立つのですか。それよりも五十年前の風光明媚な大島を、自然にあふれ豊かな海の大島を、取り戻すような計画を立てて下さい。

今、大島を気仙沼を出て行く人がたくさんいます。今は五十年後百年後の津波に備えることより、五年後十年後に一人一人がより豊かに楽しく暮らせる計画を立てるべきです。防潮堤を作る費用で若い人が戻ってこられる生活の場を作して下さい。子供たちが伸び伸びと遊べる自然環境を整備す

ることで、新しい住人が来るかも知れません。そのことに知恵とお金を使うべきです。

先日、舞根での防潮堤は作らないとのニュースがありました。この際気仙沼市は他の市町村と違って「防潮堤のない自然あふれる市」を目指しませんか。百年後に残すのはコンクリートのかたまりではなく、美しい自然でしょう。市民憲章の「自然を愛し、海と緑のうつくしいまちをつくりまします」とあります。防潮堤は市民憲章に反します。「自然を壊し、海と緑のない汚いまちをつくりまします」に市民憲章を変えますか。水上不二の歌碑が海を見渡せる大島神社の傍に建っています。

海はいのちのみなもと
波はいのちのかがやき
大島よ
永遠にみどりの
真珠であれ

どうか、もうこれ以上「みどりの真珠」を壊さないで下さい。

大島中学校仮設

熊谷雅裕